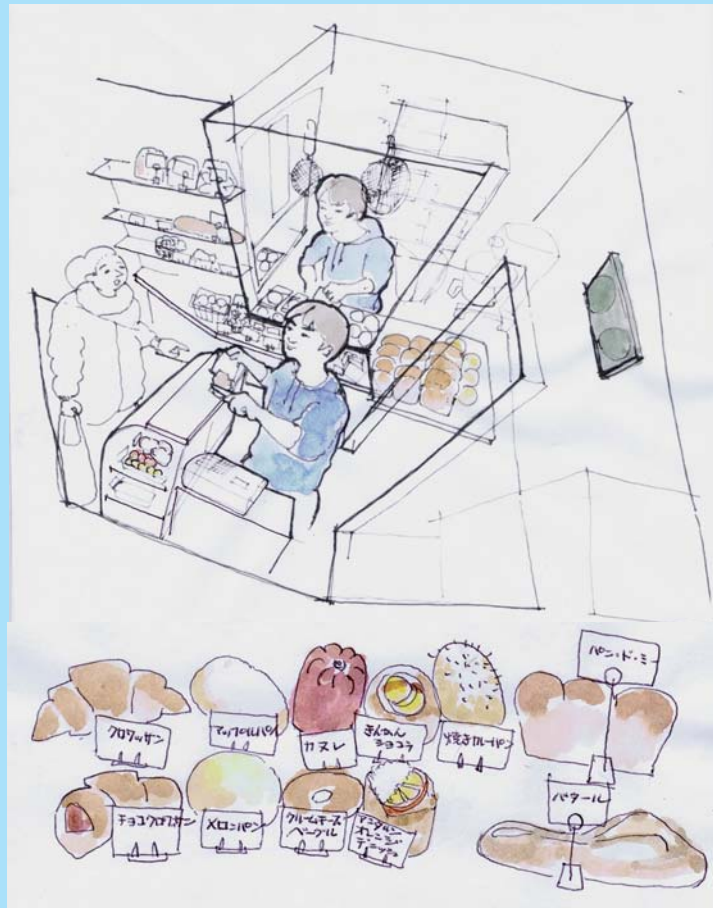


まちのちいさなパン屋さん

シリーズ～まちの中の達人～



(イラスト: 井出幸子)

中央通り商店会と本町通り商店会の角にあるベッカー・フジワラをお訪ねしました。

ベッカー・フジワラは客が一人入ればいっぱいになるほど小さなお店です。しかし、並べられているパンやケーキの種類は多く、時間によって入れ替わりながら、毎日30種類を焼いているとのこと。しかもどれも美味しそう。ついついあれこれと注文してしまうお店です。

それもそのはず、店主の藤原さんは、名のああるパン屋とケーキ屋で10年修行をされてから、自宅から歩いてこれるこの場所で開業されたそうです。開業して12年。自家製天然酵母を使い、添加物や保存料を使用しないこだわりのパンはまちにすっかり根付き、たくさんのファンがいるそうです。飲食店の紹介サイトでも話題のお店で、たくさんの人がうわさを聞きつけて遠くから買いに来ているようです。

朝8時30分の開店のために5時から厨房に立ち、夜の8時まで、何度もオープンでパンが焼かれています。毎日やり続けることの秘訣を伺うと、「プライドです」と笑いつつ、休みなく動き続ける手元の横には、オープンから出たばかりの食パンが香ばしく並んでいました。



池袋本町

まちづくりニュース

No.62

2017年3月発行

発行：池袋本町新しいまちづくりの会
<http://池袋本町.net>
 豊島区都市整備部地域まちづくり課
 問い合わせ先：
 tel 03-3981-1464
 fax 03-3980-5135
 編集協力：防災アンド都市づくり計画室

新しいまちづくり事業…地区防災不燃化促進事業

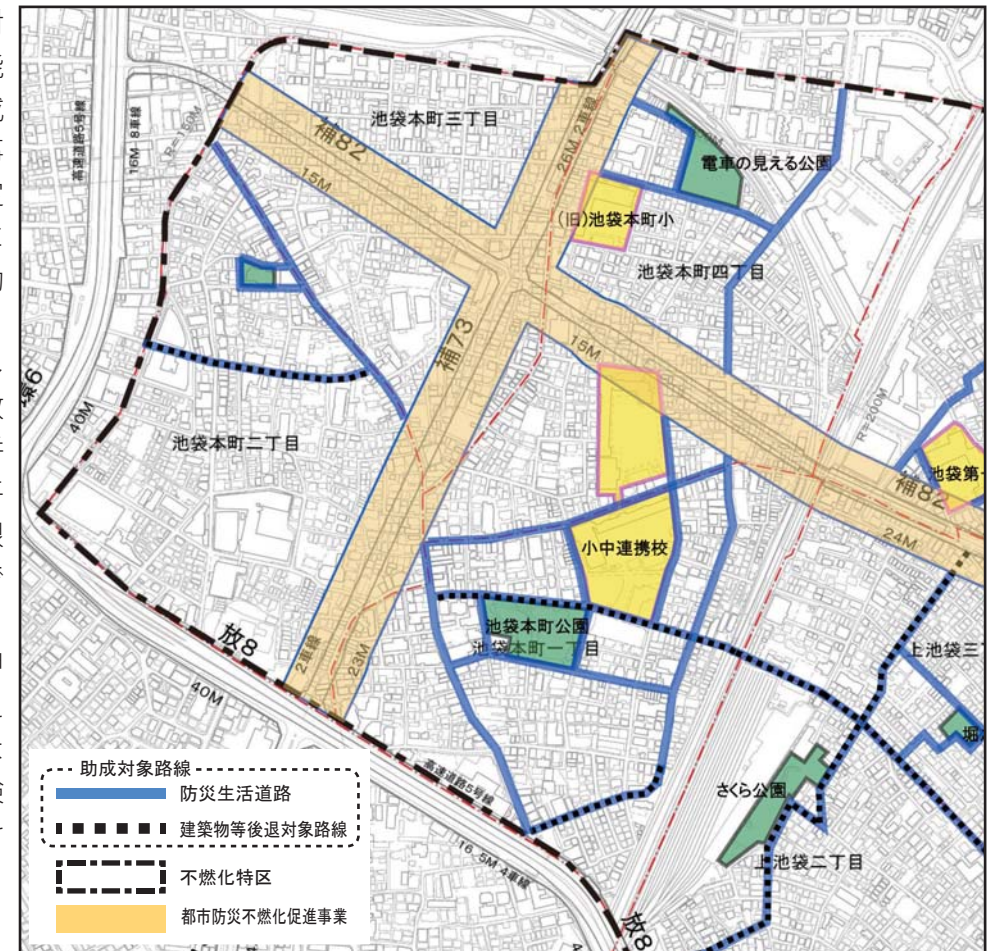
豊島区では、首都直下地震の切迫性を踏まえ、災害危険度の高い木造住宅密集地域を「燃え広がらない・燃えないまち」にしていくため、建替え等に対する各種支援を行っています。

これまでの助成制度等に加え、平成29年4月より東京都の防災都市づくり推進計画に定める「防災生活道路」の沿道で、建替え等に対する新たな助成制度を導入することにしています。

新たな制度は、耐火・準耐火建築物への建替え(耐火性能の向上が条件)に対する助成である「地区防災不燃化促進事業」と、道路中心線から一定距離後退して建築した場合に交付される「建築物等後退奨励金」の2種類です。

対象となるのは、図に示した「防災生活道路」に接する敷地です。既存の助成制度と併用できる場合もあり、また平成33年3月末日までの期間限定ですので、ぜひこの期間での建替えをご検討ください。

なお、建替え前に事前の申請が必要となります。建替え後の申請では助成の対象となりませんので、建替えをご検討の方は区までお問い合わせください。



まね 視点を変えて考えてみると

昨年秋、池袋本町小中連携校が開校し、東武東上線北池袋駅前通りの風景が変わりました。その景観の変化の是非はともかくとして、こうしてまちが変わっていくのだということを多くの人が実感したのではないのでしょうか。

そんな折、歩車道の境界の車止めを通してノーマライゼーションやバリアフリー、ユニバーサルデザインについて考える機会がありました。

「どうしてこんな道つくったの!」という声がありました。歩道と車道の間にある「車止め」の縁石ブロックに足をかけて転んだのです。その話を聞いた方が、「どうなっているの?」と、その道を探検に行ったら、「車止め」に気を取られて、カーブミラーのポールにぶつかり、ろっ骨を折ったとか。

これらのことは、本人の不注意によるものもあるかもしれませんが、それだけだろうかという思いで、改めて校舎の周りを歩いてみました。

二つの事故が二次的な大事故につながらなかつ

たことは不幸中のさいわいでした。転んだ拍子に、他の人や自転車または自動車との接触等につながる危険性が容易に想像できるからです。

区からは車いすの方が通りやすいように段差をなくした設計にしたと聞いています。白杖の方にとっても、あのデッパリは杖で障害物として感知し歩行が可能になると言われています。しかし、弱視の人にとってはどうなのでしょう。また、目に他の障害のある人、高齢になって段差を認識しにくい人にとっては? 眼鏡等では調整の範囲を超える状態や、昼と夜、雨、曇天日、快晴等気象条件によっても影響が出ます。

出来上がった「車止め」に異議を唱えるものではありませんが、視点を変えて考えることによって、これまで気が付かなかったさまざまな問題が浮き上がってくるかもしれません。別の視点を持つことの大切さを再認識しました。(青山静可)



つれづれに一言
 いけよんプロジェクト 村崎佳代子
 本町訪問看護ステーション

寒さも続き、外に出る事が億劫になりがちです。風のない穏やかな日は、暖かな陽だまりを探しに外に出るのもいいですね。家にこもりがちな季節ですが、外を歩くことは大切です。歩くことは、筋力低下防止にももちろん、気分転換や適度な日光浴にもなります。顔見知りのご近所さんや商店街の方と話もできます。

「歩くこと」はメリットが多いのですが、最近街の中で歩いていての方を見かける事が少なくなりました。もし、街の中に腰を下ろせる場所があったらどうでしょう? 途中で腰を下ろして休む場があれば、歩いて買い物や散歩に出かける方も増えるのではないのでしょうか? 腰を下ろして、街を眺めたり、話をしたり…。歩く事が一番自然な形のリハビリなのかもしれません。誰もが安心して出かけたくなるような街「歩いて暮らせる街」になるといいですね。

私たち「いけよんプロジェクト」では地域の医療・介護・相談の専門職と地域住民の方が参加し「だれもが暮らし続けられる街にしよう」という取り組みをはじめたところです。地域の皆さんと「池袋本町新しいまちづくり」に一緒に取り組んでいけたら素敵だと思います。